

西国三十三霊場巡りマラニック

観音正、三井、元慶、上醍醐、岩間寺

十九年十二月九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

10月8-9日、西国三十三観音霊場5ヶ所を巡ってきました。1日目は聖徳太子を開基とする観音正寺で能登川駅から裏参堂で向い、帰りは表参堂から安土駅に向いました。ここは西国霊場でも有数の難所と言われ、かなりの距離がありました。次に大友皇子の遺命により創建された三井寺に参拝しました。翌日は番外元慶寺（開基は遍昭僧正）に寄り、上醍醐寺（開祖理源大師）に参拝後、岩間寺に行こうと思ひ僧侶に「岩間寺までどれくらいかかりますか？」と聞いたところ「4時間かかります」と言われ、その時すでに13時だったので暗くなると大変と思ひ、下りは飛ばし上りも急ぎ、着いたのは15時で2時間かかりました。この山道は巡礼古道と言われ道標もしっかりありますが、距離が長く上り下りもあり素人では4時間かかるというも尤もです。岩間寺は加賀の白山を開いた泰澄大師が開祖と言われています。千田さんには霊場巡りで必要な輪袈裟や数珠など貴重なアドバイスを受け、本堂では線香とローソク、経をあげること、白衣の自作の”南無観世音菩薩”についてもレクチャーを受けました。また杖はストックでいいですよと教えられ持参し、巡礼古道では大変役に立ちました。

三十二番 観音正寺



十四番 三井寺



十一番 上醍醐寺



十二番 岩間寺



三十二番 織山（きぬがさやま）観音正寺



西国十四番 長等山三井寺

白衣は自作です



西国十一番 深雪山上醍醐寺



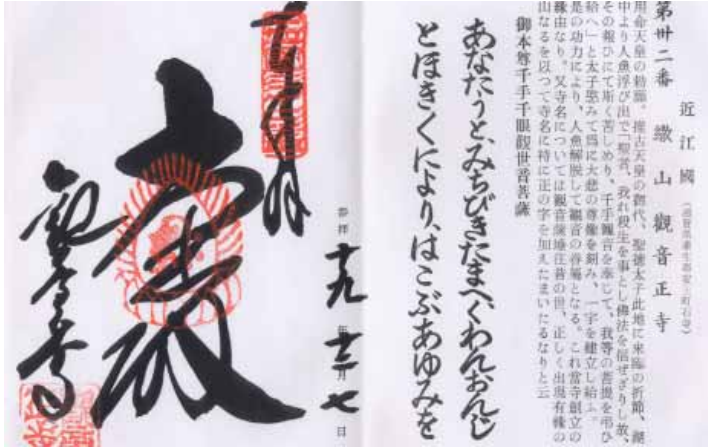
西国十二番 岩間山岩間寺

西国三十三霊場巡りマラニック 第三十二番 織山 観音正寺

十九年十二月九日

フル百回楽走会
593
武藤 翔峰

観音正寺は聖徳太子を開基とする寺のひとつである。行きは能登川駅から裏参堂経由で本堂に向い、帰りは表参堂から安土駅に向った。ここは西国三十三ヶ所中最難所の一つとして有名な寺であり、アップダウンや距離もあり十分にその困難さを体験できた。本堂は平成5年(1993年)5月22日に全焼した。この火災により本堂に安置されていた重要文化財の本尊、木造の秘仏千手千眼観音立像をはじめ平安後期の毘沙門天像など仏像9体も焼けてしまった。しかし平成16年5月22日に「本堂」が再建され、落慶法要と同時に本尊の開眼法要も行われた。本尊は千手千眼観世音菩薩である。



西国三十三霊場巡りマラニック 第十四番 長等山 三井寺

十九年十二月九日

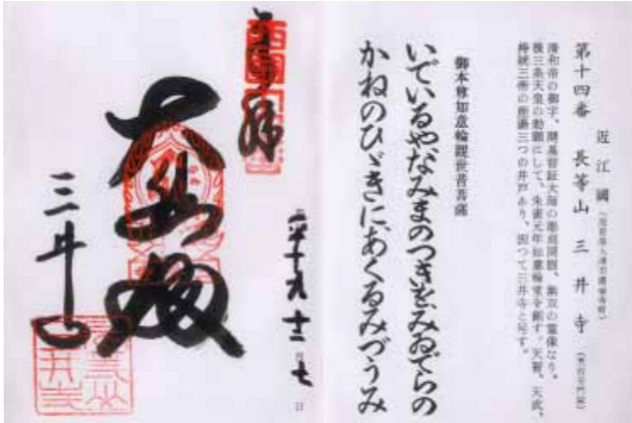
フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

三井寺は天台宗の総本山で、本尊は如意輪観世音菩薩、壬申の乱で敗れた弘文天皇の菩提を弔うため、皇子の大友与多王が天武15年(686年)に寺を建立したのが創始と伝えられている。

「観音堂」に安置されている本尊「如意輪観世音菩薩」は平安時代の作とされ、三十三年毎に開扉される秘仏である。三重塔は、室町時代初期の建築で、もとは奈良の比蘇寺にあったもので慶長6年(1601年)に徳川家康によって寄進されたといわれている。「金堂」の西南側に「霊鐘堂」が建っており、この建物の中には「弁慶の引き摺り鐘」と「弁慶の汁鍋」が置かれている。残念ながら「金堂」は修理中だった。



西国三十三霊場巡りマラニック 番外 華頂山 元慶寺

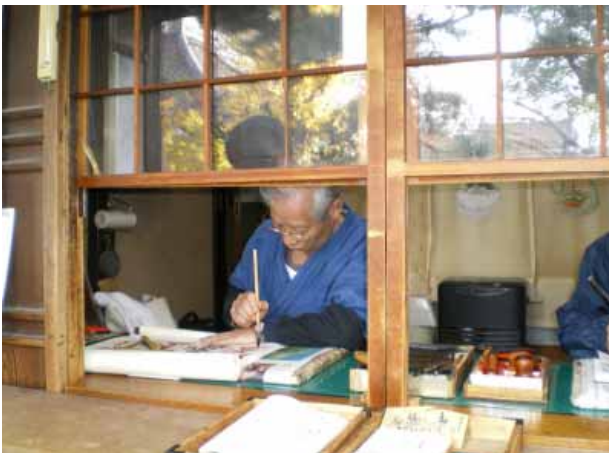
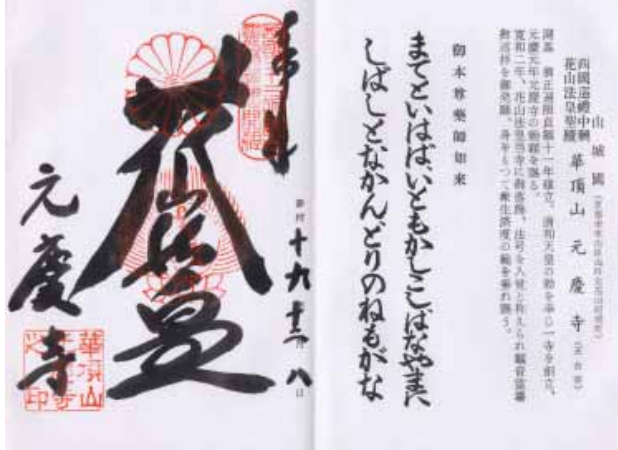
十九年十二月九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

桓武天皇の孫にあたる遍照は仁明天皇の崩御に従い出家し、延暦寺で仏門に入り、貞観11年(869年)に元慶寺を創建したとされている。「山門」は竜宮造りになっており、唐風で珍しい。「山門」には梵天と帝釈天が安置されていたようであるが、それらは京都国立博物館に寄託されている。門をくぐると、石畳が続いており、正面に納経所、左手に「本堂」が見える。「本堂」は木立の中に建てられており、元慶寺の境内が狭いためか「本堂」の前には広場もない。本堂には本尊である薬師如来の他に遍照の作と伝えられている木像が安置されているという。「本堂」の前の石畳を納経所の方に一寸進んだ左手に『人皇六拾五代花山院法皇御落飾道場』と彫られた石柱標識が建てられている。



西国三十三霊場巡りマラニック 第十一番 深雪山 上醍醐寺

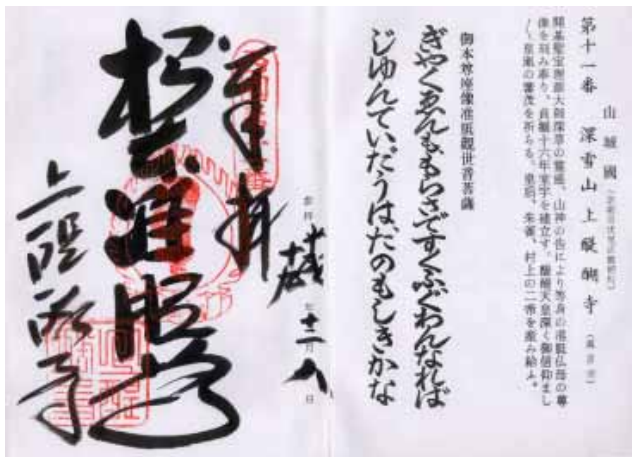
十九年十一月九日

フル百回楽走会

593

武藤 翔峰

宗派は真言宗醍醐派総本山、本尊は坐像准胝観世音菩薩、開基は聖宝理源大師と言われる。弘法大師の孫弟子、理源大師が都の東南の方に五色の雲がたなびいている山を見て、霊地とすべく登ったところ、醍醐山の神、横尾明神の化身である老人が現れ、そこに湧き出ている水を飲み、『ああ醍醐味なるかな』と言ったという。これが醍醐寺の名の由来になった伝えられている。上醍醐寺は西国三十三ヶ所霊場中最大の難所の一つであり、醍醐寺から上醍醐寺まで1時間かかった。「醍醐水」前の広場にある石段を上がると「准胝堂」と呼ばれている本堂の前に入る。「准胝堂」には本尊の准胝観音像が安置されている。岩間寺までは、そこから巡礼古道を辿り素人で4時間、今回は時間がなかったので2時間で駆け抜けた。途中一旦は西笠取東笠取に下り、さらに岩間寺に向けて上る。



西国三十三霊場巡りマラニック 第十二番 岩間山 正法寺（岩間寺）

十九年十一月九日

フル百回衆走会

593

武藤 翔峰

泰澄和尚が女帝元正天皇の厄年の病気を法力で平癒させた褒美として、養老6年(722年)に勅命により建立されたのがこの寺の創始と伝えられる。泰澄大師は加賀白山を開いたことでも知られている。宗派は真言宗醍醐派、本尊は千手観世音菩薩である。上醍醐寺から巡礼古道を辿って2時間、やっと「ぼけ封じ」で有名な岩間寺に着くことができ、私のぼけを封じて下さるよう祈願した。本堂に隣接して東側に小さな池があり「芭蕉の池」と呼ばれている。松尾芭蕉はこの寺の観音を信仰し、供養塔を建立したところ、忽ちにして靈験を蒙り、有名な句「古池や蛙飛び込む水の音」が世に出たとされている。この句にある「古池」がこの池であるという。今回の西国三十三霊場観音マラニックはここで終了し夕闇迫るJR石山駅に向かって下って行った。

